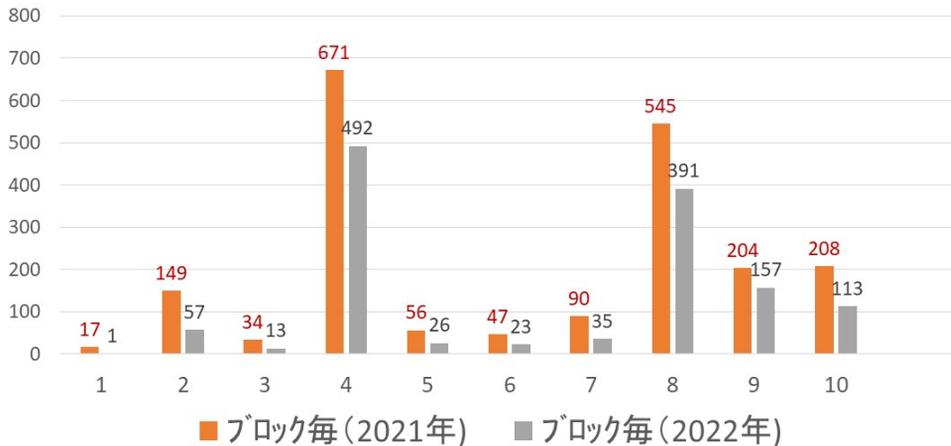


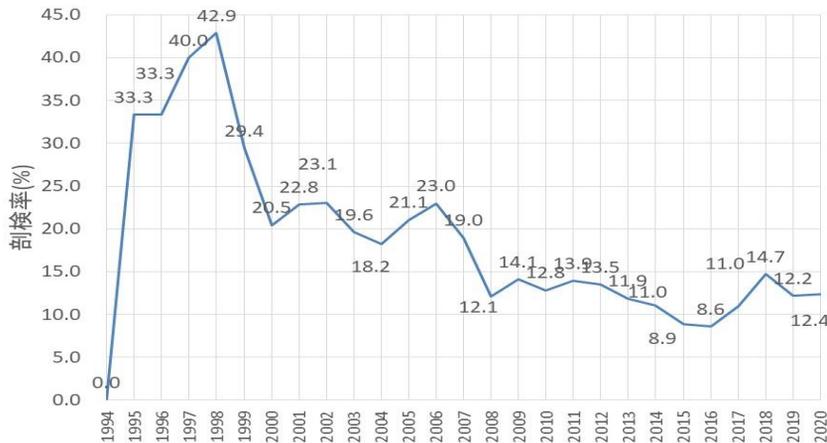
わが国のサーベイランスの課題とその対策

研究分担者：国立精神・神経医療研究センター病院 脳神経内科 塚本忠

ブロック別の未検討症例数(#5000以降)
(2021年11月及び2022年12月時点)



プリオン病患者の剖検率



解説

1. 従来、調査票が事務局に戻ってきているかどうかということで「未回収票」を捉えていたが、近年のサーベイランスによる罹患数がなかなか死亡統計数に追いつかないことから、昨年度より、委員会で判定が終了しているかという視点で「未回収調査票」を数えなおした。2015年以降の発症症例で多くの「未回収調査票」が発掘された（直近の調査中の症例も入っていることに注意）。日本全国のプリオン病の悉皆調査の目標を達成するために、「未回収調査票」症例の調査が必要である。
2. 剖検率問題の解決策として、（都道府県をまたいだ）剖検可能な施設のセンター化、サーベイランス委員会病理専門医による出張剖検、関係学会との協力、転院先と事務局との情報交換の活性化などが重要である。最近の剖検率の改善は、サーベイランス委員会病理部門の出張剖検、遺体の搬送による施設を超えた剖検の実施などによるものである。